

10/15 日 福

# 受診控え 医療費11.9%減

## 5月減り幅最大 首都圏で影響深刻

病气やけがの治療で全国の医療機関に支払われた入院や外来、調剤などの概算医療費が今年五月は前年同月比で11.9%減ったことが分かった。厚生労働省が四～六月分のデータを公表した。四月は8.8%減で、五月に減り幅が最大になった。新型コロナウイルス感染拡大を受けて全国で緊急事態宣言が出され、受診控えが起きたためとみられる。

六月は2.4%減まで縮小。しかし、小児科や耳鼻科の六月の外来医療費は三割減で、保護者が子どもの受診を控えさせる傾向が続いた。必要な医療が受けられにくい恐れもある。首都圏など都市部ほど影響が長引いており、診療科や地域で状況が違つ実態が浮かんだ。厚生省は三～七月の全国の患者数の推移も公表。五月は前年同月に比べ20.2%も減少したが、六月、七

概算医療費と患者数の推移

20年	概算医療費	患者数
3月	—	▲9.2%
4月	▲8.8%	▲18.4%
5月	▲11.9%	▲20.2%
6月	▲2.4%	▲9.6%
7月	—	▲9.6%

※対前年同月比。▲は減少

月はそれぞれ9.6%減となり、回復の兆しが見られた。一人当たりにかかった医療費を年代別で見ると、未就学児では四月32.1%減、五月33.8%減、六月22.9%減と、受診控えが顕著だった。一方、七十五歳以上は五月は11.1%減だったが、六月は1.8%

減となり、前年とほぼ同じ水準に戻った。

外来医療費を診療科別（診療所）で見ると、六月は小児科が31.9%減、耳鼻咽喉科が28.5%減で落ち込みが続いている。内科などそれ以外の診療科は7.7～0.1%減。皮膚科だけ6.2%増えた。

外来医療費の都道府県別では、五月に減少幅が最も大きかったのは東京都の19.5%減、最小の宮崎県でも9.5%減だった。六月は東京都と神奈川県が5.0%減が最大。一方で増加に転じたところも複数あった。